

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2171700103		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	恵那市長島町中野1205番地の72 (電話) 0573-26-2615		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月5日	評価確定日	平成19年8月3日

【情報提供票より】

(平成19年 5月 21日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人 , 非常勤3 人, 常勤換算10 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	12,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	160 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6 月 5 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 77.3 歳	最低	56 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森川クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改良した建物は、広大な敷地の中にあり、住宅や林、田畑とも接している。玄関前の細い緩やかな昇り道の突き当たりには、稲荷神社があり、利用者の参拝と、散歩コースになっている。散歩中には、草花を愛でたり、馴染みの住民との会話、馴染みの飼い犬とのふれあいなどもあり、地域にとけ込み、人間関係を豊かにした暮らしが営まれている。代表者は、地域福祉に熱意を持って取り組んでおり、その意義を職員も共有している。利用者のいきいきとした表情や、楽しそうな笑い声の伴った会話が、絶えず聞こえている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は改善されており、評価の意義を理解し、サービスの質の向上に取り組むとともに、利用者本位のケアに活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎月2回の会議では、職員全員から意見を汲み取り、得られた課題や気づき等を、自己評価に反映させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月ごとに開催し、運営状況について討議している。特に、地域との交流を実のあるものにするため、理解者である地域代表者及び民生委員からは貴重な意見や情報を得て、事業運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、様々な機会を通じて意見を伺っている。介護の内容や経済的不安についても、利用者・家族に配慮し、不安の軽減に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会の一員として、地域住民との馴染みの関係ができており、各種行事や地域活動に参加する等、緊密な連携が取れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共豊」の理念を掲げ、利用者の豊かな感情と、豊かな人間関係を支え、地域で暮らしていくための方針を明確にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議やミーティングの中で、常に話し合いのテーマにして理念を共有し、実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や民生委員からの理解と協力が得られ、地域の行事・祭り・催し等、積極的に参加している。近隣の人々とも、日常的に挨拶や季節の話題について、気軽に会話が交わされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を前向きに捉え、利用者の安全・安心を第一に、サービスの質の向上に取り組んでいる。前回の要改善項目も概ね解消されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、事業所の取り組み全般について意見交換をし、参加者からの意見を取り入れながらサービス向上に活かしている。</p>		<p>次回は、金銭管理に関するテーマが予定されている。</p>
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当課には、必要な連絡、報告等を通じ連携をとることでグループホームの運営を円滑に進めている。また、新たな地域密着型の事業開設が進行中であり、市からの指導を受けている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月「便り」を発行し、暮らしの様子を伝えている。面会時や電話でも個々に合わせた連絡をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱や苦情相談ポスターを設置し、家族には、その利用方法を繰り返し伝えている。これまでに寄せられた相談は、介護計画についてのものが多く、計画に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配置転換による移動はあったが、最近の離職者はいないとのことであった。利用者へのダメージを防ぐために管理者による精神面の指導が徹底されている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践研修修了者が、他の職員の指導役を担っており、働きながら学んでいる。また、外部研修にも段階に応じ参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>業者との実践的な交流はないが、グループホーム協会東濃支部の中で、情報交換が盛んに行われている。管理者は、地域連絡協議会の幹事も務めていて、グループホームの現状を把握し、参考にしている。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の性格や、生活歴を把握し、本人が新しい生活に馴染めるように、家族と相談しながら、馴染みややすい雰囲気づくりや優しい言葉掛けなどを工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションから能力や興味を引き出し、喜怒哀楽を共にし、支えあっている。途切れなく、笑いの伴った会話の場面が見られた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人は、どのような思いや、意向を持っているのか絶えず気配りしながら、やりたいことや、やれそうなことを本人本位で支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人が毎日安心して暮らせるように、個別の状態を把握し、家族と相談しながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回のケア会議を行い、見直しが検討されている。変化のある場合は、家族と相談して随時見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>患者移送車両の認可を得て地域の要介護認定者や障害者等の利用要請に応じている。施設入居者の入退院の支援、入院中における必要な支援を随時行なっている。また、家族や地域の認知症相談にも積極的に応じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月2回行われ、連絡は24時間体制が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の指導の下で、終末期限界まで見守り、病院医療に委ねる方針を取っている。家族の理解も得られている。重度化の場合でも、看護師を中心に見守りの体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や言葉掛けには、特に配慮している。個人情報については、文章で掲示し、家族にも繰り返し説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れはあるものの、習慣化して喜んで受け入れている方もいる。散歩では、個別の要望に応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度は、食べたいものアンケートを取り献立に採り入れている。食膳の準備や片付けを職員と一緒にしているが、直接の調理参加は、全国的なノロウイルス流行以来中断している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を優先し入浴してもらい、拒否の人にはタイミングを図りながら、無理の無い支援に努めている。職員は、入浴中はできるだけ楽しい会話に心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の収穫物を処理したり、花の鑑賞や水やり、ゲームや趣味の塗絵等、個々の気分が満たされるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺環境に恵まれ、安心して散歩に出掛けている。買い物の同行、花や畑の様子を見に行くなど、日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない暮らしを実践している。チャイム、センサーも付けていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は、消防署の訓練を受けている。近所の人達にも協力が得られるように働きかけている。床には誘導マーク、ヘルメット、リュックサック、誘導灯等の避難用具が設置されている。	○	ホームは安全第一を掲げ、取り組んでいるが、縦に長い収容棚が数箇所あるので、耐震用の倒壊防止金具の取り付けを検討されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保はおよそ把握している。職員の中には栄養士がいて、必要に応じ管理指導が行なえる体制が整っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家に調和した玄関周りや、不快な音や眩しい光もなく、居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、本人の名前入り、お気に入りの写真が表示されている。居室にも思い出の品、写真、花、人形などが持ち込まれていて、落ち着いた居心地の良い工夫がみられる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。